

東京大学

<東京大学 傾向と対策>

東京大の英語出題内容と対策 (120点) 試験時間 120分 ※ Listening はⅢ

傾向変化があるのは IB(Logical 問題)・II (英作文)・IVA (文法問題) だが 2016 年度は最終長文も。

IA	IB	II A	II B	III	IVA	IVB	V
要約	Logical	英作文①	英作文②	Listening	文法	和訳	長文

【東京大学合格へのカギ】

合格最低点から逆算すれば、英語を決め手に使うなら 90 点台後半～100 点超えということになるが、記述の採点基準により元々誤差の大きい試験でそれを狙うのは相当厳しい。また、個別試験の科目負担が大きい東大入試で仮に英語だけ 100 点を超えたとしても、理社の 2 科目目で 30 点未満であれば貯金はそれだけでなくなってしまう。**得意科目の破壊力ではなく、総合力で勝負する方が東大合格の王道**であろう。70/120 を超えれば、後はセンター試験を含めた科目バランスの勝負になる。特に比較的得点源となる**理社で英語同様 70/120 を超えられれば**、後はロースコアの叩き合いで差がつかないため、大きなアドバンテージが取れる (2016 年文系数学のように極端に数学が易しくなれば別)。**英理社+センター試験で 230/550 を取れば残りの数国で 90-100/200 を取れば合格が見えてくる**。1 科目得意科目があっても合格が厳しいということをしっかり頭に入れ、バランス重視の学習を心がけてもらいたい。

□ 東京大学英語攻略の基本戦術は以下の通り。

<得点源とすべき分野：リスニング+IB (Logical Reading) + II (英作文) + 長文読解記号問題>

- リスニング問題 4 択問題。出来れば選択肢の先読みをして望みたい。英文は 2 度読まれるし、聞き取りづらい音声の区別といった問題ではなく、内容真偽問題なので東大受験レベルの学生なら長文読解として出されれば誰でも満点取れる問題。解答の根拠となる部分を聞き逃さなければ確実に得点出来る。配点は不明だが、河合塾 Open も駿台実戦も 30 点配点もあるので、ここで最低でも 24 点は欲しい。英語が苦手な生徒なら 60/120 が目標となるが、その半分がここで取れることに注目して欲しい。

- IB(Logical Reading) 解答時間は約 10 分程度。5 ~ 6 問で内容は段落整序か英文空所補充（早大文・文構・中央大・上智大・成蹊大などが類題）。私大ほど意地悪ではなく、論理に注目すれば確実に満点取れる分野。逆に国語力・論理的思考力が弱点の生徒にとっては大きな失点になりかねない分野。苦手なまま受験に臨むべきではない。2013 年以前のセンター試験で同タイプの出題が多数あるので、苦手ならそこから取り組んで克服しよう！

□ 英作文

II Aは図などを見て作文させる問題。自分で難しい問題にしないこと。中学生レベルの知識があれば、あとはミスしなければ高得点出来る。逆に難しい構文を用いてもエラーが多ければ得点にならないので注意。II Bは傾向が安定しておらず、2016年では2段落の英文に続く結論部の3段落目を書かせる問題が出題された。意外と受験生が苦手にするのは「諺」などについて思うところを述べる問題。与えられた英文の意味の理解が浅いまま書くと内容的に点数を貰えない答案になってしまうので注意。記述だが得点源にしたい「英作文分野」。**難しい知識ではなく、簡単な英文をミスなく書ける学習が必要。**

□ 長文読解記号問題

2016年はやや傾向が変化し論説系の文章になったが、例年は物語系の文章。登場人物のキャラと状況を正確に掴めば、記号問題はほぼ満点取れるはず。多少熟語の知識や前置詞の知識で難しいものが出題されることもあるが、取れる問題を確実に取ればそういった問題は時間をかけず捨ててもOK。和訳問題も出題されるが、構文ではなく内容理解を聞く問題なので、**直訳では点にならない**と覚悟して内容を理解していることをアピールする日本語を書くように心がけよう。

<ボーナス点と考えるべき分野：ⅠA要約・ⅣA文法・ⅣB和訳>

ⅠA要約

「東大生全体が和訳より要約を苦手になっている」という声もあり、合格者でも常に高得点というタイプは少ないのではないかと課題文によって得点力のバラツキが大きい分野なので、苦手になっている人は時間をかけて解答してもほとんど点数を貰えないこともあり得る。標準解答時間は12分程度だが、苦手な人が15分かけて取り組んでも0~3/10しか取れないのだとすると、Listeningの先読みや他の得点源になる分野に時間を回す方が総合点はUPするはず。解法を一言で言うと、「**英文を細かい要素に分解して論理的に繋げる**」だけ。授業動画で解説予定なので参考にして貰いたい。

ⅣA文法

不要な1語を指摘させる問題、整序問題が主流。年度による難易度のバラツキも大きいので「難しい」と感じたら時間を使わず後回しにすること。正誤なら5分、整序なら8分程度で収めたい。整序問題で易しい年なら満点が当たり前で得点源問題になるが、整序問題でも難しい年なら満点は厳しい。時間をかけすぎず諦めて別の問題に時間を使うべき。正誤問題は3/5以上なら差はないと考え、時間をロスしない！仮に1/5や2/5でも他で十分挽回出来る。

□ IV B 和訳

一昔前と違って**構文は相当易化**している。**下線部だけを見るのではなく、全体の内容を理解した上で解答**すること。「5 文型による分析が出来ました」といったレベルの答案ではほとんど点を貰えないと覚悟しておくこと。要約に比べれば安定した高得点が可能な分野だが、ここも時間をかけすぎないことが重要。

次ページからは、2015 年 3 月発行の学習通信 Lighthouse より抜粋した資料を掲載しておく。

		110	120	120	120	80	550
目標	センター	英語	国語	社会	数学	合計	
320	85%	93.5	70	62	70	25	320.5
	86%	94.6	70	61	70	25	320.6
	87%	95.7	70	60	70	25	320.7
	88%	96.8	70	59	70	25	320.8
	89%	97.9	70	58	70	25	320.9
	90%	99	70	56	70	25	320
330	85%	93.5	75	65	70	27	330.5
	86%	94.6	75	65	70	26	330.6
	87%	95.7	75	65	70	25	330.7
	88%	96.8	75	64	70	25	330.8
	89%	97.9	75	63	70	25	330.9
	90%	99	75	61	70	25	330
340	85%	93.5	75	70	72	30	340.5
	86%	94.6	75	70	71	30	340.6
	87%	95.7	75	70	70	30	340.7
	88%	96.8	75	70	70	29	340.8
	89%	97.9	75	70	70	28	340.9
	90%	99	75	70	70	26	340
350	85%	93.5	77	75	75	30	350.5
	86%	94.6	76	75	75	30	350.6
	87%	95.7	75	75	75	30	350.7
	88%	96.8	75	75	75	29	350.8
	89%	97.9	75	75	75	28	350.9
	90%	99	75	75	75	26	350
360	85%	93.5	80	75	80	32	360.5
	86%	94.6	80	75	80	31	360.6
	87%	95.7	80	75	80	30	360.7
	88%	96.8	80	75	80	29	360.8
	89%	97.9	80	75	80	28	360.9
	90%	99	80	75	80	26	360
370	85%	93.5	85	75	80	37	370.5
	86%	94.6	85	75	80	36	370.6
	87%	95.7	85	75	80	35	370.7
	88%	96.8	85	75	80	34	370.8
	89%	97.9	85	75	80	33	370.9
	90%	99	85	75	80	32	371

東大文系合格学力の作り方（数学をアテにしない戦略）

数学が得意なら別の闘い方も出来るが不確定要素が大きい（当日の受験会場での出来で左右される）ので、センター試験と英国社の最低得点率を確保し、数学をボーナス科目と想定する。その戦略で得点を想定してみると、上の表ようになるが戦略的には以下の通り。【他大学の場合もエクセルを使って自分でやってみましょう！】

センター87% (95.7 点) + 取り易い英社 (150~180/240) + 取りにくい国数 (100~120/200)

が標準的な年度の難易度の東大で落ちない学力。345.7 点~395.7 点が得点幅となるが、センターを含めた問題の難易度が上がれば 320 点付近がボーダーになることもある。単一科目ではなく、取り易い科目と取りにくい科目に分けて合計で得点を確保するイメージが有効。取りにくい国数で 100 点（90 点付近でもよいが）を取れることと取り易い英社で 150 点は最低確保する学力が作れば合格は見えてくる。もちろん、センターを含む各科目で上積み出来れば鉄壁になるし 難易度が上がって得点が落ちてても、ラインの下がりを超えなければ 合格ラインは確保出来る。万ーセンターで失敗した場合でも英国社 75 点学力+英国社のどれかの科目で爆発的な能力を出せば逆転は可能。もちろん、数学が得意で 50 点を取る逆転法もあるが当日の問題との相性次第なので注意。

② 東大・理系

センター得点率		
%	900	110
94.0%	846	103.4
93.0%	837	102.3
92.0%	828	101.2
91.0%	819	100.1
90.0%	810	99
89.0%	801	97.9
88.0%	792	96.8
87.0%	783	95.7
86.0%	774	94.6
85.0%	765	93.5
84.0%	756	92.4
83.0%	747	91.3
82.0%	738	90.2
81.0%	729	89.1
80.0%	720	88

	理 I 合格	理 II 合格	理 III 合格
2014	307	310	372
2013	316	303	370
2012	334	318	383
2011	325	326	393
2010	307	307	364
2009	323	323	380
2008	315	310	378
2007	311	305	386
2006	325	323	395
2005	311	311	382
Ave.	317.4	313.6	380.3
Max.	334	326	395
Min.	307	303	364

理Ⅲを除く理Ⅰ・理Ⅱのボーダーラインが低いのは、特に数学の難易度が高いことにもよりますが、元々理系エリートは文系エリートに比べ関西から上京してこない傾向が強いことも要因の一つです(ドラゴン桜という漫画でも、東大は募集人員とボーダーの関係から文系でも理系でも理Ⅰから入れ!というのがありました)。

		110	120	120	120	80	550
目標	センター	英語	理科	数学	国語	合計	
305	85%	93.5	70	70	40	32	305.5
	86%	94.6	70	70	40	31	305.6
	87%	95.7	70	70	40	30	305.7
	88%	96.8	70	70	40	29	305.8
	89%	97.9	70	70	40	28	305.9
	90%	99	70	70	40	26	305
310	85%	93.5	75	75	40	27	310.5
	86%	94.6	75	75	40	26	310.6
	87%	95.7	75	75	40	25	310.7
	88%	96.8	75	75	40	24	310.8
	89%	97.9	75	75	40	23	310.9
	90%	99	75	75	40	21	310
320	85%	93.5	75	75	42	35	320.5
	86%	94.6	75	75	42	34	320.6
	87%	95.7	75	75	42	33	320.7
	88%	96.8	75	75	42	32	320.8
	89%	97.9	75	75	42	31	320.9
	90%	99	75	75	41	30	320
330	85%	93.5	80	80	45	32	330.5
	86%	94.6	80	80	45	31	330.6
	87%	95.7	80	80	45	30	330.7
	88%	96.8	80	80	45	29	330.8
	89%	97.9	80	80	45	28	330.9
	90%	99	80	80	45	27	331
340	85%	93.5	85	80	42	40	340.5
	86%	94.6	85	80	41	40	340.6
	87%	95.7	85	80	40	40	340.7
	88%	96.8	85	80	40	39	340.8
	89%	97.9	85	80	40	38	340.9
	90%	99	85	80	40	36	340
385(理Ⅲ)	85%	93.5	90	90	57	50	380.5
	86%	94.6	90	90	56	50	380.6
	87%	95.7	90	90	55	50	380.7
	88%	96.8	90	90	54	50	380.8
	89%	97.9	90	90	53	50	380.9
	90%	99	90	90	51	50	380

東大理系合格学力の作り方（数学をアテにしない戦略）

数学が得意なら別の闘い方も出来るが不確定要素が大きい（当日の受験会場での出来で左右される）し、東大理系の数学は半分取れる学生はかなりレベルが高く高得点組は一部の特殊な生徒に限られるので、センター試験と英国理の最低得点率を確保し、数学をボーナス科目と想定する。その戦略で得点を想定してみると、p.3の表のようになるが戦略的には以下の通り。

センター87% (95.7 点) + 取り易い英理 (150~180/240) + 取りにくい国数 (80~120/200)

が標準的な年度の難易度の東大で落ちない学力。325.7 点~395.7 点が得点幅となるが、センターを含めた問題の難易度が上がれば 300 点付近がボーダーになることもある。単一科目ではなく、取り易い科目と取りにくい科目に分けて合計で得点を確保するイメージが有効。取りにくい国数で 80 点 (70 点付近でもよい) を取れることと取り易い英理で 150 点は最低確保する学力が作れば合格は見てくる。もちろん、センターを含む各科目で上積み出来れば鉄壁になるし 難易度が上がって得点が落ちても、ラインの下がりを超えなければ 合格ラインは確保出来る。万一センターで失敗した場合でも英理 75 点学力+英国理のどれかの科目で爆発的な能力を出せば逆転は可能。もちろん、数学が得意で 60 点以上を取る逆転法もあるが理系の場合には厳しい。当日の問題との相性次第なので注意。

ちなみに理科Ⅲ類の場合には、

センター99 点 (90%以上) + 英理で 180 点前後/240 + 数国で 100 点前後/200

が目安となる。（理Ⅲですら数学で 100 を超えるような戦略は単純にたたない点に注意）

<東大・合格のための戦略>

英社・英理の高得点(150~180)/240 + 数国の合計で80~100/200点が目安

- 英語： **例年高得点が可能**。ただし、難易度が上がる年度もあるので注意。得意なら90点以上取りたいが、どんなに学習してもそのラインを超えるかどうかは当日の問題との相性などもあるので80点レベルを超えたら、無理に得点を上げる勉強に時間をかけ過ぎないことが重要。
- 理社： **東大合格を最も大きく左右する科目**。特に文系の場合2科目とも得意科目に出来るかどうかのカギ。理科は物理の高得点組が多いので物理有利とも言えるが、受験層が生物より高いからそうなっている面もあるので、化生・化物どちらの場合も英語で合わせて150を最低超えられる学力を作れるかどうかのカギ。
- 国語： 易しい年はそれなりに取れるが、難しい年は差がほとんどつかなくなる。現古漢の教科内バランスがよければ、難易度に関わらず得点はそれなりに出来るし、男子は文理を問わず苦手意識から学習不足が目立つので、**この科目の得点力がある生徒は文理ともに東大向き**と言える。
- 数学： 易しい年もない訳ではないが、難しいのが普通。**この科目の難易度が下がれば、共立生にとって厳しい戦いになる**が、取れる問題の見極めとミスのない基礎力があれば、それほど差をつけられる科目ではない。数学の学習に追われて理社の学習時間を食われないように注意しよう！